

北海道大学ウェビナー

「ポストコロナ時代の東アジア」③

新型 コロナウイルスと 変容する社会

コロナ危機は新しい生活様式の標準を再編し、それをめぐる確執も顕在化しつつあります。しかし現代社会は確執の先行きさえも予測困難な不確実性に直面しています。それよりも不気味なのは、新型コロナウイルスが制圧されても以前の見慣れた風景は戻らないという喪失感と、過去にはいまさら戻れないという高揚感が入り混じる、混沌とした自己アイデンティティなのかもしれません。

在宅勤務による新しいライフスタイルなど雇用や働き方の変化、児童虐待や配偶者への暴力など家族・対人関係の危機、営業・外出の自粛や同調圧力という差別と偏見等々。コロナ禍は誰にでも公平ではないことを突きつけています。押し付けられた改革は、はたして誰に味方するのでしょうか。

ポストコロナ時代にどのような「新しい日常」を作っていくのかを構想するとともに、コロナ危機で露わになった矛盾を克服するためのヒントを探ります。

ウェビナーはオンラインで行い、YouTube（下記URL）で配信します。どなたでも視聴が可能です。ぜひご視聴ください。

日時

2020年7月31日(金)

午後4時 - 6時

形態：オンライン・ウェビナー（WEBINAR）

参加方法：YOUTUBEによる視聴

<https://youtu.be/LtoXl-x5jqw>

※当日、こちらのURLにアクセスしてください。
配信終了後も一定期間ご覧いただけます。

報告

渡邊浩平（北海道大学）

百年前のマスク
-「スペイン風邪」瞥見-

宮岡真央子（福岡大学）

台湾山地先住民の村における
新型コロナウイルス感染症のインパクト

齊藤巧弥

芳賀 恵（北海道大学）

韓国の性的マイノリティとホモフォビア
-ナイトクラブにおける集団感染を事例に-

趙慶喜（聖公会大学）

韓国におけるコロナ対策と
非可視化される在外同胞／移住民

辻本篤（北海道大学）

リモートワークで派生した
組織コミュニケーションの課題
-DXの奔陥を超えるために-

コメント

森山至貴（早稲田大学）

コーディネーター

玄武岩（北海道大学）

主催 北海道大学大学院
メディア・コミュニケーション研究院附属
東アジアメディア研究センター
<https://ceams.imc.hokudai.ac.jp/>